

科 目 名

生薬学実習

Laboratory Work in Pharmacognosy

2年 後期 1単位 必修

野原 稔弘・村上光太郎
吉満 齊・宮下 裕幸

概要・目標

天然薬物（生薬を含む）は現代医療の原点であり、その多くは直接もしくは間接的に、天然薬物を起源とする医薬品として病院や薬局などで重要な役割を果たしている。本実習では生薬学Ⅰおよび生薬学Ⅱの講義で得た知識をもとに、生薬について形態・確認反応による識別能力を養うと共に、生薬製剤の調製、漢方処方箋の鑑定及び生薬中の有効成分の分離から構造解析に至るまでの技術を習得する。

授業計画

1. 薬用植物の観察
2. 生薬製剤の調製
3. 生薬の鑑別
4. 漢方処方箋の鑑定
5. 生薬の確認試験
6. 天然物質の抽出・分離
7. 天然物質の構造解析

薬学教育カリキュラムおよび到達目標

C7 自然が生み出す薬物

(1) 薬になる動植物

【生薬とは何か】

- 1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。

【薬用植物】

- 1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。
- 2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。
- 4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。
- 5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。

【生薬の同定と品質評価】

- 2) 代表的な生薬を鑑別できる。
- 3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。
- 5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。

(2) 薬の宝庫としての天然物

【天然物質の取扱い】

- 1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。
- 2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。

(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬

【漢方医学の基礎】

- 4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる
- 5) 代表的な漢方処方箋の適応症と配合生薬を説明できる。
- 6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。

評価方法

レポートおよび実習試験で評価する。

教 材

生薬学実習書（生薬学研究室作成）